

平成17年9月6日大水害

あれから10年

>10<

教訓は生かせるか：

杉尾 哲氏 基調講演
平成17年台風14号大水害の教訓



土木学会は大淀川と本庄川との合流地点にある地域で、台風14号の際に住民があまり避難しなかった地区と、たくさんの方が避難された地区を選んでアンケート調査を行いました。

この結果を見ると、何で避難しないのかが分かります。宮崎市には避難指示・勧告が出ましたが、浸水

たから」ということでした。

しなかった地区では9割の方が「避難した」と言っています。ところが、浸水した地区は6割の方が「避難しなかった」と言っているんです。

避難した人に「なぜ避難したんですか」と聞いたところ、浸水しなかった地区は「避難情報が出たから」、浸水した地区は「浸水し始め

がなかった」「それが「おかしい」と思っている間に床下がつかり、あつという間に天井までつかってしまった」と言われる方が非常に多かったんです。この地区はこれまでに何回も浸水していたんです。

肝心なのはこれなんです。避難情報で危険性が分かりましたか」と聞くと、浸水した地区では多くの方が「分からなかった」、浸水しなかった地区は「分かった」と答えられました。面白いですよ。

「どういう方法でその避難情報入手しましたか」と聞いたところ、浸水しなかった地区は「テレビで分かった」

「広報車で分かった」という回答でした。浸水した地区は違って、「隣近所の呼び掛けで分かった」と言っている



浸水で孤立した住宅。家の中から心配そうに外を見守る人の姿も（平成17年9月6日午後2時ごろ、延岡市松山町）

ていないんです。

山間部で降った大雨がまとまって下流に流れ、異常な流量で非常に危険な状態だった。にもかかわらず、自分の頭の上に降っていない宮崎市の人は「うちは大丈夫、今回は大丈夫」と考えていたというところになります。

残念ながら、正常性バイアスというのが作用するんだそうです。そのため「危ないですよ」という避難情報が出て、危険性が伝わりにくいわけです。その結果、避難しなかったということになったんです。

「広報車で分かった」という回答でした。浸水した地区は違って、「隣近所の呼び掛けで分かった」と言っている

宮崎市内で降っていないんですよ。自分の頭の上では雨が降っ

避難しなかった地区 雨降らずに浸水「思いもしなかった」

防災・減災を考える
シンポジウムから――